

マリレジャーに関する安全情報など様々な情報をお届けします！

海の事故情報 3月中のマリレジャーに伴う人身事故・海難の発生状況

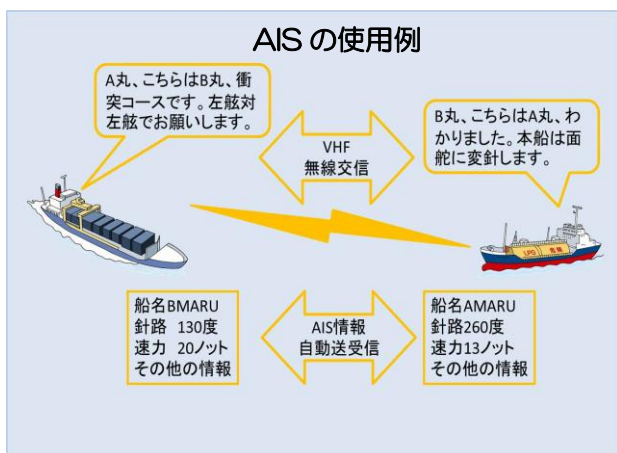
【海中転落】3月4日、酒田港内の岸壁で釣りをしていた男性が、岸壁の防舷材に引っかかった釣針を外すために身を乗り出し、誤って海に転落しました。男性の仲間が付近に係留していた巡視船に救助を求め、男性は無事救助されました。ライフジャケットは着用していませんでした。

春とはいえ、まだ海水温度は低い東北の海、まず

は海に転落しないよう細心の注意を払いましょう。単独行動は控え、もしもの場合に備えて、自己救命策3つの基本（ライフジャケット着用、連絡手段の確保、緊急時の118番通報）も忘れずに！



海の安全情報 『AIS (エー・アイ・エス)』をご存知ですか？

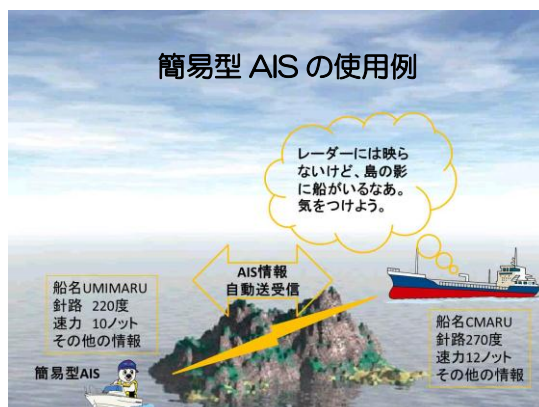


「AIS」とは「Automatic Identification System」の略称で、日本語では「船舶自動識別装置」といいます。総トン数が500トンを超える船舶などに設置が義務付けられている航海機器で、船名や位置、針路、速力などの情報を無線により自動的に送受信して、船舶相互間や船舶と陸上局との間で情報を交換することによって、船舶の衝突防止などに利用されています。

雨や雪、波浪又は地形などの影響によってレーダー映像で相手船をはっきり捉えられない場合でも、AISを設置した船同士であれば、お互いの動静がディスプレイなどで確認できるうえに、船名もわかるので無線交信による意思の疎通も容易になるなど、安全な運航のために大変有効なシステムなのです。

設置が義務付けられていない船舶用として、機能が簡略化されて比較的安価（15万円程度）な「簡易型 AIS」も販売されていて、小型船でも設置可能な場合がありますので、一度ホームページなどで検索してみてください。

【注意】簡易型 AIS の利用に当たっては、無線従事者資格は必要ありませんが、総務省への無線局免許申請などが必要となります。



海難防止活動 『ゴールデンウィーク期間中のマリナー安全推進活動』について

第二管区海上保安本部では、プレジャーボートなどのマリナー活動が活発になるゴールデンウィーク期間中の海難や人身事故を防止するため、毎年、同期間中にプレジャーボートや釣り人に対する集中的な指導啓発活動を実施しています。主な指導事項は、次のとおりです。

- ① 小型船舶操縦者の遵守事項に対する指導（適切な見張り、発航前点検等の遵守事項に従った運航など）
- ② ミニボートに対する安全指導（基本的な海上交通ルール・マナーの習得、転覆防止のための注意事項の遵守など）
- ③ 釣り中の海中転落事故防止（気象・海象の早期把握、複数名行動の励行、自己救命策の確保など）



ワンポイント講座 海難事故防止のためのワンポイント講座です。『ミニボートの特性』

船舶検査や小型船舶操縦免許が不要なミニボート（船の長さが3m未満かつ機関出力1.5kw（約2馬力）未満のボート）は、その手軽さが受けて愛好者も増加しているようですが、船体や機関が小さいが故に安全に航行できる限界も低いことを十分理解して運航しましょう。また、ミニボートにも海上衝突予防法などのルールが適用されます。ルールを守り安全運航に努めましょう。

【ミニボートの特性】

- ・ 波が打ち込みやすい。
- ・ 安定性に劣り、波や乗船者の動きによる動揺が起こりやすい。
- ・ 他の船から見えにくい、レーダーに捉えにくい
- ・ エンジンの推力が弱く、速力も遅い 等

【注意事項】

- ・ 安全に航行できる限界は、「波の高さ20cm以下、風速4m/s以下」程度とされています。最新の気象・海象情報に留意し、無理な航海は控えましょう。
- ・ 転覆する可能性が高くなりますので、ボートの上で立ち上がったたり、舷外に身を乗り出したりする行為は行ってはいけません。
- ・ 旗竿などを立てて、他の船から見て目立つように工夫しましょう。レーダー反射器の設置も有効です。夜間の航行は控えましょう。
- ・ 風が出てきたら、すぐに陸に戻れるように、岸から遠く離れない場所で運航しましょう。
- ・ 機関故障時に備えて、必ずオールを積んでおきましょう。
- ・ ライフジャケットを常時着用し、防水携帯などの連絡手段を確保しましょう。
- ・ 砂浜等に放置していると、潮の干満や風浪により流出することがありますので注意しましょう。



海の言葉 海や船に関する用語について解説します。『レッコ』



「レッコ」は英語の「let go」の発音が訛り、日本船で使用する語として定着したもの。「(物を) 放す」という意味で使われます。本来は、船で錨を入れる場合は「let go anchor」、係留索を放す場合は「let go the head line」などのように使われますが、日本船では、物を捨てる場合も「レッコ」が使われます。「その汚れたウエス※をレッコしとけー」、もちろん海に捨ててはいけませんね！

※ウエス…機械の油や汚れなどをふき取ったりするための古布。Waste (ウェイスト) が訛ったもの。

簡易安全ツール紹介 空缶を利用したレーダー反射器『みえなア缶』

大型船から見れば、プレジャーボートなどの小型船は小さくて確認しにくい存在。小型船にとっては、船の存在をアピールすることが衝突海難の防止にもつながります。FRP製の小型船舶は、レーダー電波の反射が弱く、レーダーの映像として捉え難いので、レーダー反射器を取り付けることが有効です。



みえなア缶の完成品

法定備品として備え付けが義務付けられている船については、基準に適合したものを備え付ける必要がありますが、正規の備品の補助として、あるいは備え付けの義務がない船（ミニボートなど）での使用を目的として、空缶を利用したレーダー反射器をご紹介します。

第四管区海上保安本部四日市海上保安部が考案したもので、必要な物は、アルミ缶3個、はさみ、カッター、ガムテープなど。製作にかかる時間は約1時間。是非トライしてみてください。

【注意】アルミ缶を切断する際は、手袋などの保護具を使用して怪我のないように作業しましょう。作り方は次のURLから↓↓ 「みえなア缶」でも検索できます。

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/O2kanku/yorozuya/shiryousouko/mienaakan.pdf>

羅針盤 編集担当者の四方山話的コラムです。『海の時間』



船に乗っていると、広い海の只中にいるせいなのか、あるいはスピードが車に比べてゆっくりとしているせいなのか、時間までもゆっくりと流れるような気がします。また、航海日数の長い船で勤務していると、土日が休みという形態ではないこともあり、今日が何日の何曜日なのかという意識が希薄になりがちです。(海上自衛隊の金曜カレーは、乗組員の曜日認識のためもあるのだとか。)

海と陸の環境の違いは、それぞれで発生する事故にも影響を与えるようです。

海難事故は、その多くが操船者の不注意を原因として発生しています。「操業を終えて帰港途中、

疲れて眠ってしまい岩場に乗揚げた」「斜め前方に操業中の漁船と思われる船を視認していたが、ほとんど動きがないので衝突するおそれはないだろうと考えて、目を離して書類を整理していたところ、相手船が動き出して衝突した」など。

交通事故も運転者の不注意が原因になっていることが多いのですが、船と車の違いは、「不注意」が発生してから、事故に至るまでの時間です。車の場合は、走行中に居眠りや判断ミスをしたら即衝突などの事故につながる可能性が高いのですが、船の場合は、事故発生までの時間が比較的長いことが多いのです。もしも居眠りをしても他の船や障害物がない限り衝突や乗揚げは起こりません。レーダーで衝突コースにある船を見逃しても、目視で見張りをしている間に発見して避けることができます。船の場合は、車に比べてミスを取り戻す余裕があるとも言えるかもしれません。もっとも眠ってしまったら、誰かに起こされなければ、目を覚ますことは期待できませんが…。(150 総トン以上の船等では、船橋の当直者が一定時間何もしないと警報が作動する船橋航海当直警報装置(BNWS、通称「居眠り防止装置」)が備えられています。)

一方で、バッテリー上がりなどの不具合は、車の場合は修理屋さんに電話して、駐車している場所でじっと待てば何とかありますが、船の場合はそうはいきません。洋上でエンジンがかからなくなれば、そのまま沖合に流されたり、天候が悪化すれば転覆の危険もあります。

このように、海上では、その環境が陸上とは大きく異なるため、ミスを取り戻す余裕がある代わりに、陸上であれば些細な故障で済むものが、人命に関わるような大きな事故に繋がることも多いです。海上の特性を理解した上で、安全にマリレジャーを楽しみましょう。

本紙を印刷物でご覧の方へ

マリレ情報よろず屋をホームページからご覧になる場合は、次のURLから！「マリレよろず屋」で検索してもヒットします！

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/O2kanku/yorozuya/index.htm>

大切な命!自分で守る

海上保安庁では、大切な命を自分で守るため、そして、一人でも多くの人を救助できるよう、次の3つを基本とする「自己救命策確保」を推進しています。



ライフジャケットの
常時着用



携帯電話などの
連絡手段の確保



救助要請は118番

海のもしものは!
118